

琉球大学学術リポジトリ

アフガニスタン・カブール旧市街地の研究：
伝統住宅とダランを対象として

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Azizi, Mohammad Umar メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48609

(様式第5-2号) 課程博士

令和 3 年 2 月 4 日

琉球大学大学院
理工学研究科長 殿

論文審査委員

主査 氏 名 安藤 徹哉

副査 氏 名 清水 肇

副査 氏 名 神谷 大介



学位 (博士) 論文審査及び最終試験の終了報告書

学位 (博士) の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 総合知能工学 氏名AZIZI MOHAMMAD UMAR 学籍番号 [REDACTED]		
指導教員名	安藤 徹哉		
成績評価	学位論文 合格 不合格	最終試験 合格 不合格	
論文題目	A Study of Kabul Old City, Afghanistan:Traditional Houses and Dalans アフガニスタン・カブール旧市街地の研究:伝統住宅とダランを対象として		
審査要旨 (2000字以内) この論文は、第1章「序章」、第2章「カブール旧市街地の基礎的研究」、第3章「アシュカン・ワ・アレファン地区の伝統住宅の詳細」、第4章「アシュカン・ワ・アレファン地区のダランの詳細」、第5章「カブール旧市街地の保全計画の提案」、第6章「まとめ」の6章より構成されている。その研究目的は、カブール市内で最も伝統的市街地が残っているアシュカン・ワ・アレファン地区を調査対象地区として、伝統住宅とダラン(住宅の一部である構造物が上部を覆っている通路)の特徴を明らかにするとともに、カブール旧市街地の保全計画を提案することである。研究方法については、まず衛星写真を用いてベースマップを作成した上で、2018年から2019年にかけて複数回の現地調査を行なっている。 1) 多くの新しい住民がカブール市内の他の地区またはカブール以外のアフガニスタン国内から移住してきていることが明らかになった。また、カブール旧市街地に定住する人々の大多数は低所得者である。 2) アシュカン・ワ・アレファン地区の全住宅を調査した結果、伝統的、近代的、両者の混合の3種類の住宅タイプが特定された。地区内では伝統的住宅が多数を占めており、旧市街地としての歴史的景観がある程度保全されていることが改めて確認された。また、近代的住宅の分布はメインストリート沿いが最も多く、伝統的住宅は袋小路沿いがメインストリート沿いよりも多くなっており、アクセスの良さが伝統的住宅から近代的住宅へ建て替える動機の一つとなっていることが推測された。			

伝統的住宅の内、最も多い居住床数は2層であり、基礎階を含めた建物床数は最大で3層であることも分かった。ほぼすべての伝統的住宅が中庭型間取りであり、平面形状としてはC型、O型、H型が全体の大半を占めている。道路区分と平面タイプの間に関係は見られないが、平均敷地面積はH型が最も大きく、C型、O型はH型よりも小さくなる。さらに、C型、O型、H型の伝統的住宅から一例ずつ事例を選び、詳細な調査を行なった。その結果、調査対象地区の3例の伝統的住宅はほぼ同じ材料および構法で建てられていることが明らかになった。また、その最下層階は基部に石積みを用いて上階よりも丈夫な構造としており、最下層階の現在倉庫として使われている場所がかつては家畜小屋として使われていたことなどが分かった。

3) アシュカン・ワ・アレファン地区の全てのダランを調査し、その分布特性、規模、平面形状、および利用状況などを明らかにしている。さらに聞き取り調査により、ダランを撤去した理由などを分析している。最後に、歴史的景観としてのダランの重要性を指摘し、伝統的住宅やダランの破壊を防ぐために、政府が即座に行動を起こし、効果的な管理を課すことを提案している。

本研究成果は工学的に有用であり、提出された学位論文は博士の学位論文に相当するものと判断し学位論文の審査を合格とする。また、論文発表会における発表ならびに質疑応答において、申請者は専門分野および関連分野の十分な知識ならびに十分な研究能力を有していることが確認できたので最終試験を合格とする。